

美大生と表具師の感性が紙文化を未来へつなぐ作品展を開催

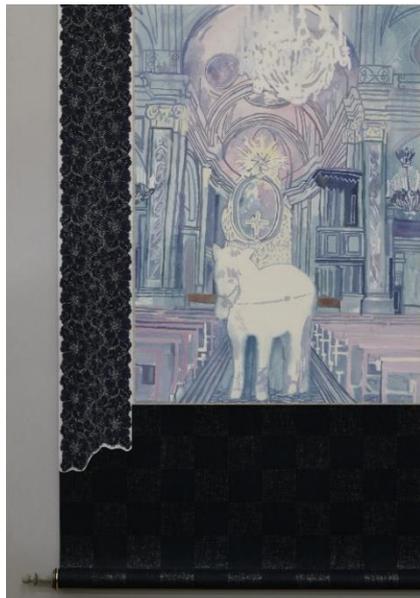
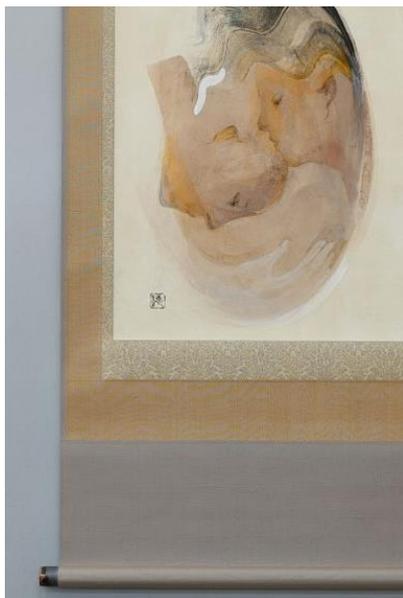
掛軸と絵画の未来展

— 美大生と表具師@三溪園 パトロネージュのかたち —

国指定名勝「三溪園」（所在地：横浜市中区）では、江戸表具研究会「表粋会」との協働企画として、8月13日(土)から21日(日)まで、「掛軸と絵画の未来展」を開催します。

三溪園の創設者・原三溪は、実業家でありながら美術愛好家でもあり、明治時代の終わり頃から横山大観など近代日本画家たちの支援を始め、物心両面から支えました。本展では、三溪から支援を受けた彼らがかつて制作を行った「鶴翔閣（横浜市指定有形文化財）」を会場に、伝統技法の継承を志す表具師が表装した美大生の作品展示を行います。また、原三溪が支援した作家の作品展示や大人も子どもも楽しめるワークショップを開催します。

現代の感性をもって表装した作品は、掛軸の新しい可能性を拓きます。過去から現代へつながる芸術支援（パトロネージュ）のかたち的一端をご覧ください。



<掛軸とは>

書や絵画を表装し、床の間や壁面などに掛けるように仕立てたものをいい、日本の絵画・書跡文化の一つの形態として、数百年もの間、続いてきました。近世以降は一般庶民のあいだにも広まり、昭和時代の家庭では床の間に掛軸を掛けることが一般的となっていました。現在では住宅に和室が少なくなり、好みの絵や優れた書を所持し、季節ごとに掛け替えるといった文化が衰退しつつあります。

<表具とは>

日本美術において書画が表される媒体は紙や絹ですが、そのままでは薄く脆弱なため、紙・裂地・糊などを使い、掛軸や巻物、屏風や襖などに仕立てることで強度も見た目もさまになります。これを「表具」または「表装」といいます。

本展において、美大生たちは「掛軸にするための絵」というテーマで新作を制作し、それを伝統技法の継承を志す江戸表具研究会所属の表具師が掛軸に仕立て、展示します。学生と表具師が感性を競い合い、また融合する、かつてない形の作品展です。

- 日程 | 8月13日(土)～21日(日)
- 時間 | 9:00～16:45 (最終入場 16:30)
- 会場 | 鶴翔閣
- 内容 | 新作 29 点ほか
- 料金 | 無料 (入園料別)
- 主催 | 江戸表具研究会 表粋会



掛軸をはじめ、屏風・襖・室内装飾などの製作施工に携わる表具師・経師による研究会。1996年に熱意ある若手を中心に発足し、現在30名余りの会員が所属。業界団体主催の表装展や全国規模の技能士競技会などにおいても受賞・入賞をかさね、実力者を輩出。職人それぞれの多様な技術・知識をもちより、互いに研究・習得し、次代へと継承する活動をおこなっている。

■ワークショップ

「瓦の拓本をとって表具しよう！」

三溪園の文化財建造物に使われていた瓦を使い、拓本を製作するワークショップ。自分で摺った拓本に、今回は特別に表具師が色紙に貼付けします。色紙や友禅紙で彩りを添え、オリジナル作品を作りましょう。

- 日程 | 8月13日(土), 14日(日), 20日(土), 21日(日)
- 時間 | 9:30～・11:00～・13:30～・15:00～ 所要時間 約1時間
- 会場 | 鶴翔閣 茶の間棟
- 料金 | おひとり様 2,000円 (税込・入園料別)
- 定員 | 各回5名 *親子(2名)で1名として申し込めます
- 申込 | オンラインサービス Peatix にて販売中

<https://sankeien-hyosukai-takuhon.peatix.com>

- 協力 | 江戸表具研究会 表粋会



「顔彩で塗り絵！気分は日本画家」

顔彩を使った塗り絵体験。葉書サイズの絵に、日本画家気分で色づけを楽しめます。

- 日程 | 8月18日(木), 19日(金)
- 時間 | 9:30～・11:00～・13:30～・15:00～ 所要時間 約1時間
- 会場 | 鶴翔閣 茶の間棟
- 料金 | おひとり様 1,500円 (税込・入園料別)
- 定員 | 各回5名 *親子(2名)で1名として申し込めます
- 申込 | オンラインサービス Peatix にて販売中

<https://sankeien-hyosukai-nurie.peatix.com>

- 協力 | 江戸表具研究会 表粋会

■関連企画

所蔵品展《書画の装い》

表装の一つの形式である「掛軸」に注目し、その様々な装いを楽しんでいただける作品を展示します。所有者、描いた人、表装を手掛ける表具師等、作品をとりまく人々へ思いをさせながら、ファッションショーを見るような感覚でご覧ください。

日程 | 7月14日(木)～8月21日(日)
時間 | 9:00～17:00 (入園は16:30まで)
会場 | 三溪記念館 第1・第2展示室
料金 | 無料(入園料別)



パネル展《卷子装ができるまで》

修復された所蔵資料「観梅会の記」(原三溪 筆)とともに、卷子装ができるまでをパネルにてご紹介します。表装の手法について学ぶことができます。

日程 | 8月13日(土)～8月31日(水) *8月24日(水)は消防設備点検のため閉室
時間 | 9:00～17:00 (入園は16:30まで)
会場 | 三溪記念館 第3展示室
料金 | 無料(入園料別)

◆三溪園について

三溪園は生糸貿易により財を成した実業家・原三溪によって、1906年(明治39)5月1日に公開。175,000㎡に及ぶ園内には京都や鎌倉などから移築された歴史的に価値の高い建造物が巧みに配置されている。2007年(平成19)に国の名勝に指定。

(現在、重要文化財10棟・横浜市指定有形文化財3棟)

◆原三溪について

原三溪(本名 富太郎)(1868年/慶応4-1939年/昭和14)

岐阜県厚見郡佐波村(現在の岐阜県岐阜市柳津町)で代々に渡り、庄屋をつとめた青木家の長男として生まれる。幼少の頃から絵・漢学・詩文を学び、1885年(明治18)東京専門学校(現在の早稲田大学)に入学、政治・法律を学ぶ。1888年(明治21)頃に跡見学校の助教師になり、1891年(明治24)、原善三郎の孫娘、屋寿と結婚し原家に入籍。原家の家業を継ぐと、経営の近代化と国際化に力を入れ、実業家として成功を収める。住まいを本牧・三之谷へ移すと古建築の移築を開始し、1906年(明治39)三溪園を無料開園。1923年(大正12)の関東大震災後は、荒廃した横浜の復興に力を注ぐ。三溪自身も書画をたしなみ、その作品の一部は、園内の三溪記念館に収蔵されている。



◆施設概要

施設名 三溪園(さんけいえん)
運営 公益財団法人三溪園保勝会
所在地 〒231-0824 神奈川県横浜市中区本牧三之谷58-1
電話番号 045-621-0635
入園料 大人700円/小中学生200円



横浜市内在住の65歳以上200円（濱ともカードの提示が必要）
開園時間 9:00～17:00（最終入園16:30）
アクセス JR根岸線根岸駅から市営バスで10分「本牧」下車 徒歩10分
横浜駅東口から市営バスで40分「三溪園入口」下車 徒歩5分
公式HP www.sankeien.or.jp
Instagram www.instagram.com/sankeien_garden
Twitter twitter.com/HSankeien

本リリースに関する報道関係者からのお問合せ

公益財団法人三溪園保勝会 事業課 広報担当 岩本・加藤

TEL：045-621-0635 / FAX：045-621-6343

MAIL：iwamoto@sankeien.or.jp